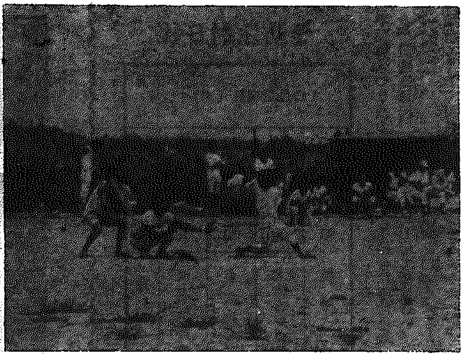
野球ブーム続く
大盛況の村内施設

さすがにスポーツの秋である。村内のおもな野球大会は八月の村民野球大会を最後に終了したものの、九月にはいってからも休日になると早朝から一日中カラブルなユニホーム姿で野球をしているのがみられる。

横越中学校グランド、沢海グランド、焼山野球場に、利用者が殺到し、異常なほどの野球ブームが続いている。従って、会場借用は、早くから申し込まなければ借りられないほどで、利用者同志で日程を調整しているのもしばしばみられる。

村外の新潟市、新津市、亀田町、京ケ瀬村などの企業や野球クラブの利用も多い。このことは、どこの市町村も沢山のクラブチーム、企業チームを有しながら絶対的な施設が不足していること。学校開放をするだけの施設でないことが考えられ、近隣の市町村に施設借用に奔走している現状で、遠く安田町へも借用に出掛けているという。


休日になるとどこのグランドも野球一色

本村でも、横越中学校グランド附近に住宅が建ち並び、野球ができなくなってきたため、野球関係者は困っている現状である。

一方、小杉地区では、我が地区にもグランドがほしいと堤外地利用を検討している。

このように、施設があることによって沢山のクラブや同好者チームができている。村内では、すでに14チームのクラブが結成されている。その中で高校生の野球チームが増えていることは特筆すべきことである。

今年度村民野球大会で優勝したブラック（沢海）は、5名の高校生がチームに所属しているのをはじめ、ゴースト（沢海）、最近誕生したばかりのレッドアロー（川根谷内）など高校生チームである。

本村の野球熱は、今後も続きそうである。

施設を管理をしている人の話…沢山の方から利用されていることはうれしい。しかしコーラ、ジュースの空びん、空かんがあちこちに投げ捨ててあったり、グランドの土をならしをやらないで帰るものが多い。スポーツマンならもっと施設を愛し、キチンと後始末をしてほしい。

中国訪問記（上）

国際友好と中堅青年リーダーの育成のため、「日中友好農民の船」は、去る八月十日から二十六日までの日程で、上海、天津、北京の三主要都市を訪れた。

この船に本村から引率団として五十嵐要栄智氏が、中堅青年派遣団として小舟戸正夫君、石倉美恵子さんが参加した。この中国訪問記を今月号から三回にわたり、石倉美恵子さんの執筆で掲載いたします。

二千年来の友好国
二度と繰り返すまい戦争の悲劇

今回、「日中友好農民の船」で念願の中国の農村、風土に接する機会を与えて頂き、各関係機関に深く感謝いたします。

余りにも多くの貴重な経験を得ましたが、紙面の都合上二、三のことについて報告させていただきます。

中華人民共和国――政治・経済・文化等あらゆることに対する評価が日本とは根本的に異なる国である。

しかし、日本とは二千年来の友好国であるとともに、日本とは近年、百年の不幸な歴史関係のあった国でもある。

その歩む路線の違いから隣国でありながら遠い存在となっていたのである。

私たちは、体制の是非を問う前に、その動静を冷静に見つめ、相互理解を深めてゆかなければならない歴史関係をもった国でもある。

このように、中国と日本は余りにも深いかかわりをもっているが、訪中に際し、私たちは、戦争という悲劇を目をつむってみることができないことを忘れてはならない。

戦争を通しての日中の歴史の溝にもあちこちで遭遇した。

上海では、ほんの一言「日本軍による影響は?」の問いに、友好的雰囲気の中にも、「すぐ附近の家で、一家17人家族のうち、16人が日本軍の三光作戦によって殺されました。」という返事が即座に返ってきた。

天津での生産大隊においても、小学校にも全て階級教育用の建物があって、そこには日本軍によって痛めつけられた教訓が生々しく描かれてあった。

中国の子どもたちは徹底した階級教育がされている。小さな子どもたちが、軍国主義、帝国主義云々を教育されているのを見て、政治と無関係に育つ日本の子どもたちの十年後、二十年後の姿がどうしても重ならなくて困惑を覚えた。

とにかく戦争の爪跡濃い先々で盛大な歓迎を受けた私たちであった。若者はもちろん、老年の人々に接する折々しみじみ、不幸な歴史を二度と繰り返してはならないと思った。

（次回は中国の農業）

（民兵の射撃訓練天津市武清県夾道生産大隊で）

第五回俳句作品公募
今井夫子氏が一位

月見草、雲の峰、浴衣を句題に、第五回俳句作品公募を本紙六月号、七月号で行ってきたところ多数の応募作品があった。

作品審査には、山田初雪先生（新潟市）ら七人の方からあたっていただいた。

その結果、総合成績で今井夫子氏が一位に、最高点句賞は、今井南呂氏の句が選ばれた。

なお、この公募作品をもとに句集「横雲」七号が発刊された。

◎総合成績

一位	今井　夫子	一五点
二位	坪谷いわお	一四点
三位	神田　初鳥	一三点

◎高点句（成績順）

- 月見草海から暮る安吾の碑　今井南呂
- 月見草揺れて湖の香匂い来る　南場愛子
- 月見草灯を上げ駅夫貨車通す　今井天花
- 雲の峰座礁の巨船動かざる　東城素秋
- 青い瞳のマネキン浴衣着てすまし　神田初鳥
- 原発の反対塔や雲の峰　今井南呂
- 月見草焚火を消して海女帰る　東城素秋
- 潜水夫憩ふ船揺れ雲の峰　神田初鳥
- 薬草のカラカラ乾き雲の峰　今井夫子
- 銛投げる足場は高し雲の峰　神田初鳥

第四回村民囲碁・将棋大会出場申込み

日時　十一月二十四日　午前九時から
会場　横越村公民館
参加申込み　十一月二十日横越公民館に
競技種目　囲碁、将棋とも小、中、高校、一般、老人の部があります。

多数の出場をお願い申し上げます。

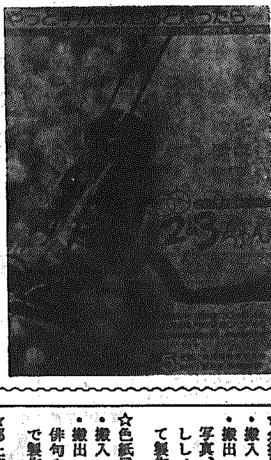
家庭教育相談事業の活用を

県教育委員会では、幼児教育の重要性を考えて、昭和四十八年度から家庭教育相談事業を開設して、満二才児をもつお父さん、お母さんを対象にして、①はがきによる通信教育②テレビ放送による学習③地域巡回相談事業を行っています。

幼児をもつみなさんからこの事業の活用をいただき健康ですこやかな子どもを育てましょう。

なお、写真にあるように幼児の家庭教育シリーズ「1・2・3ちゃん」を十月五日から毎週日曜日BSNテレビで放送いたしますのでご覧ください。

詳しい放送番組を知りたい方は、横越村公民館におたずねください。



新津市で
県公民館大会開く

「公民館は生涯教育の観点からどのような組織活動を強化し、地域住民の要望に応えたらよいか」を大会主題に、第26回県公民館大会は、九月五、六日新津市民会館で開催された。

一日目は、五分科会で熱心な話し合いがされた。

二日目は、前日の分科会報告と大会宣言決議が提起され採択された。

それによると、

①施設補助の定率化と起債許可額の大巾増額。
②交付税単位費用の算定基準の改善と増額。
③常勤専任職員の必置と法改正。
④管理運営費に県費及び国費の復活。
⑤施設県費補助復活。
⑥自治体の公民館諸施策の充実強化をおもな内容に、公民館は地域における社会教育センターとして、具現するため国、及び地方公共団体に対して行財政施策の強化を要望した。

文化祭行事のお知らせ

○期日　11月2、3日
○場所　横越村公民館
○行事内容

☆菊花展
・搬入　10月30、31日
・審査　11月1日午後1時
・搬出　11月3日午後4時
大菊（管物、厚物、散立）小菊

☆余技展
・搬入　10月31日
・搬出　11月3日午後4時
写真、絵画、書道、編物ししゅう等余暇を利用して製作されたもの。

☆色紙展
・搬入　10月31日
・搬出　11月3日
俳句や絵、格言など自分で製作したもの

☆郷土芸能祭
・11月3日　横越中学校
・神楽、しし舞、四方舞、民踊など
・のど自慢、他

☆青年作品展示会

左記のように多彩な文化祭行事を予定しました。多数の作品の出品と出場をお願いします。

第6回
俳句作品公募
～初心者大歓迎～

①公募句題（通して六句）
○夜寒（夜業・夜仕事）
○赤蜻蛉（[illegible]）
○野菊
②〆切　十月三十一日まで